いわき民報

發行所 いわき民報社
平市田町一番地(電話三八一番)
編輯發行人印刷人 千輝克己
日刊 但日曜祭日休刊
定價 一ヶ月參円 一部十五錢

保險は大正海上火災へ
大正海上火災保險株式會社
平出張所
平市二丁目・三五
電二〇二・二〇八

さあ子供達も田植えだ

平市内中等校は十五日から 國民校下級生は山菜採りに

田植えに際し戰時中と異り復員や歸農等々により、或る程度までは農家の手不足も緩和されてゐるとはいへ、この時ばかりは人手が余り過ぎるといふことはないとあつて、平市内の各男女中等學校では來る十五日から二十四日迄十日間を農繁休暇として、農家の子弟は自家のその他の生徒は親戚又は友人宅の手傳ひをなさしめ、全然農家との關係なく援農の目標ないものは夫々學校農園の作業に當らしめることに決定、又國民學校は初等科四年以上は來る二十日から十日間、三年以下は二十三日から一週間を農繁休暇として幾分でも援農せしめ、關係のない者は山野草採取をさせて幾分でも食糧危機の突破の一翼たらしめる

自村の適期を見て 郡下各校の日割決定の分は

尙郡下各國民校は自町村の適當な時期をみて休暇に入るが六日現在地方事務所視學室に報告のあつた分の日割は左の通り

▼渡邊校初等科四年以上六日から三週間、初等科三年以下十三日から二週間 ▼山田校初等科五年以上十日より三週間、初等科四年以下十七日より二週間 ▼勿來第一校初等科四年以上十日より二十日間初等科三年以下十七日より二週間 ▼飯野校十日より三週間 ▼小名濱第三校初等科四年以上十日より三週間、初等科三年以下十日より二週間 ▼磐崎校初等科四年以上六日より三週間、初等科三年以下十三日より二週間 ▼磐崎長倉校六日より二週間 ▼内郷宮校五日より三週間 ▼赤井第一校十日より三週間 ▼赤井第二校四年以上九日から三週間、三年以下十六日から二週間 ▼永戸渡戸校四年以上三日より二十日間、三年以下三日より二週間 ▼永戸永井校四年以上三日より三週間、三年以下十日より二週間 ▲箕輪第二校四年以上三日より二十日間、三年以下十日より十三日間 ▼澤渡校四年以上五日より三週間、三年以下五日より二週間 ▼上三阪校四年以上三日より三週間、三年以下十日より十四日 ▼中三阪校四年以上三日より三週間三年以下十日より二週間 ▼三阪差塩校四年以上五日から三週間、三年以下十二日より二週間 ▼大野第一校四年以上十日から三週間、三年以下十七日より二週間 ▼大野第二校五日より三週間 ▼小川校四年以上八日から三週間、三年以下十五日より二週間 ▼川前校四年以上六日より三週間、三年以下十三日より二週間 ▼川前桶賣校四年以上八日より三週間、三年以下十五日より二週間

茅二貫匁に疊表一枚

桑皮にはザラ紙 還元配給もする

桑皮の採取に呼應して石城郡内には野生苧麻三百九十貫、茅一萬四千六百貫の割當もあり今秋の採取期には各國民學校、農業會の協力を得て野生繊維の採取運動に移る右に對し茅二貫匁に疊表一枚、桑皮十貫にザラ紙百二十枚うち四十枚は無償配給を還元配給する

社會、日農の提携で 水産協同會社設立

民主的漁撈製造を目指して

縣下の社會黨及び日本農民組合有志の提携發議により、食糧及び肥料增産對策の一助として今度極めて民主的な働くものゝための"東北水産協同株式會社"を創立することになり、去月二十九、三十の兩日相馬郡福田村浮滸海岸の濱丘荘で發起人會を開き設立要綱を決定、常任準備委員に遠藤一、八百板正、山内彦二、佐伯健、横山濟一、鎌田政雄の六氏を擧げた事業として漁撈及び製造工場の二つとある

大道異變

平中 靑二

教員組合では一週五日授業とか午前中授業とかを考へ出したらしい。月月火水木金金の反動でもあるまいが、『迷案』でなく『妙案』として官廳も會社もお百姓さんも贊成の手を叩くかも知れぬ。

宿直と云つても名ばかりで、夜中に一寸寢に行く、電話を掛けても誰も居ない、たまに小使さんが代理として電話口に出て來る。授業は古色蒼然たるものか、魂の抜けた蓄音機の如きものでは日本再建は夢の夢。誤れる自由の叫びは徒らに高く、責任の重きは投げすてゝ『愉快にやりませう』と出鱈目をやられたのでは御先祖樣に申譯なし。『申譯も糞もあるものか』といふ者は論ぜず、馬糞も人糞も嚴として存在し、しかもそれが作物にとつては山海の珍味として喜ばれてゐるのだから、世の中は有難い。有難いことが解る人はなほ有難い。

文化講演會

七日平機關區で

平驛各區分會主催の文化講演會は七日午前十時から平機關區車庫で開く、講師は前同盟論說委員森元治郎氏で演題は"新聞の裏表"とある

彌次喜多就職行進曲

勤勞署の斡旋で四倉製鹽所へ

やうやく深刻になつて來た就職難の旋風にもまれ〳〵てたどり付いた九州の男と仙臺出身の中年男が平驛でばつたり遭つて同じ境遇にすつかり互に同情を寄せ『手をとり合つて就職しやう……』と平勤勞署の斡旋で新しい職場に出發すると云ふ"失業彌次喜多"行進曲――佐賀市出身白濱知寬(四七)と仙臺市東八番丁金子榮三郎(四九)がその登場人物、白濱さんが南の九州から、金子さんは北の仙臺から『石城よいとこ』と風の便りをたよつてやつて來たものゝ、着いては見たが金は無し身內も無い悲しさに年はとつても平驛でひよんぼりしてゐる粋な二人姿――この二人はやがて一の腰掛に移り更にぽつ〳〵語り合へば驚いたことに兩人同じ境遇である、いつまでも悲觀してばかりゐては飯の喰上げである『よし働かう!』と相談一決、訪れた處が平勤勞署、同署では微笑しい中年二人男の決意に動され御兩人の希望である住込出來る職場を探した處丁度四ツ倉町の製鹽所から求人申込があつたので『年はとつても悲觀することないやうお互力を合せて働きなさい』と激勵、元氣で二人は同署の窓口を出て行つた――五日平勤勞署窓口に拾つた話である

平驛の移轉 決定さる

但し實現は將來の問題時期不明

復興院松田、水谷兩技官は三日來平、平市の復興都市計劃中に含まれてゐる平停車場を新川南側への移轉問題について詳細な檢討打合せを遂げて歸京した、驛移轉跡へは一戸五十坪として八百戸の住宅が建設し得るので住宅難の折柄各方面から大きな期待をかけられてゐる、右について市復興課では語る

市の復興都計により驛の新川南側移轉は決定してゐるが、何分にも驛の移轉となると、機關車その他一切を伴はねばならないので、簡單にはゆかない、從つて二、三年後の問題として實現するか、五年後の問題となるか、そこの見透しはまだ少しもついてゐない要するに市の都計實施上行ふことに決つたのみのことであるから、今俄かにどうといふことは出來ない問題である、都計中本年度に於いて實施の決定してゐるのは驛前から新川通りに抜ける幅員三十六米の幹線道路新設と長橋通り等の幅員擴張工事のみである

興農會蘇生の喜び

長瀬小名濱農業會長の義氣に 飽迄も增産に邁進を固く誓ふ

小名濱町芳川部落は部落をあげて戰時中日立製作所小名濱工場の買收に應じ三百余の住民は全部移轉することになつたが、その中終戰となつたので、同部落では町內會長小野勝司氏を會長に興農會を結成、全地域三十七町步余を四十五萬余圓で買戻すことに決り、各自所有の封鎖預金二十六万圓を醵出、殘額を金融機關からの融資に求むべく、櫻井七十七銀行支店長、柴常陽銀行出張所長に諮つたが纒らず更らに同町信用組合に賴つたがこれ又ものにならず折角の計劃もお流れかと全員計劃放棄の肚を据えた、これを聞いた同町農業會長の長瀬彰義氏は食糧增産の喧しい折柄見逃し得ぬし又かゝる金融は農業會としての領域でもあるからと、去る三日緊急理事會を開くと共に日銀及び縣當局に猛運動、見事諒解認可を得、六日直に興農會側へ融資二十万圓快諾の旨を傳へた、興農會側は蘇生の喜びで元氣新たに當初の計劃を進めると共に父祖三百年來傳統の土地を失はずに濟ませ得た喜びに、今後は飽迄增産に邁進、長瀬會長の好意に酬ゆると感激に浸つてゐる

平倶誕生 交歡野球

硬式野球チーム平倶樂部誕生交歡野球試合は九日磐中グランドで擧行する

纖維不足の緩和に

桑の剝皮各町村の割當決定

纖維不足は私たちの手で緩和しやう……と郡內各國民學校では養蠶家と協力、いま桑園に入つて桑皮の採取に懸命である、今年は食糧增産に呼應して桑園も相當整理されたので昨年よりは割當も尠ないが合計一万四千六百六十貫に達してゐる、地方事務所では各町村に次の如く割當した

▽渡邊二十貫 ▽植田百五十貫 ▽山田千五百貫 ▽錦百十貫 ▽勿來十貫 ▽上遠野六百貫 ▽入遠野二千貫 ▽川部四百貫 ▽田人千八百貫 ▽夏井二百四十貫 ▽高久百十貫 ▽豊間百貫 ▽磐崎百貫 △赤井二百貫 ▽永戸箕輪千貫 ▽三澤三阪千五百貫 ▽草野七十貫 ▽大浦百五十貫 ▽大野三百五十貫 ▽上下小川千六百貫 ▽川前千四百貫 ▽平三百五十貫

四倉支局開設

今般左記に本社支局を開設致しました

四倉町本町一一八
電話 呼 五九番

いわき寸言

▼…磐城民主人民聯盟が食糧營團平出張所の要望に成る『食糧協力委員會』參加を拒否したとか、聯盟側が參加を拒否した理由は色々あつたことゝ思ふが、協力會が官制のものであつてもその內部に入つて委員會をリード、指導して行くだけの襟度があつてよいのではないか他の方の聯盟が計劃する人民管理以外には食糧の危機突破が出來ぬといふのは些か獨善的だ。官民一致協力せねば敗戰下の食糧問題は解結しない。形は如何なるものであつても事食糧に關する限り協力的態度こそ希ましい。

▼…盛夏近づく。女學生の夏の服裝がモンペがスカートか問題に成つてゐる。衞生的にも服裝美から見てもスカートが望ましい。但しこれは全部スカートを所持してゐる場合のこと、現在の二、三年生の多くはモンペ時代に入學したからスカートもモンペにくづし、持つてゐないものが多いのではないか、學校當局はこの点に留意し、女生徒のプライドを傷つけぬやう善處されたい

寺院よ速に開放せよ
悩む引揚者達の叫びを聴け

無一文で歸つて來た引揚者たちが直ぐ困るのは住宅の問題である、この住宅難は一人引揚者ばかりでなく戰災者、疎開者にも共通な悩みであるが更に緣故の薄い引揚者たちにとつては一層深刻である、この人達を想ふとき大邸宅や寺院はいまどんな風に利用されてゐるだらうか、特に寺の多い市内では寺院の開放に依つて或る程度引揚者たちに〃住〃を與へることが出來る――以下は『お寺を開放して呉れ』と叫ぶ人々の聲である

これが沙門の道か
ヤレ救はれたと思つたも一瞬
膠もなく頭からピンとお斷り

夫君が出征中で子供三人を抱え今度引揚げて來た或る中年の奥さんの談――

外地から歸つて來て直ぐ旅館に落付いたが二三日したら家を探したいと思ひ八方お願したが貸家どころか貸間もない弱り抜いてゐると引揚者聯盟の斡旋で中平窪のお寺に一室開放して戴くことになつた、その翌日子供達を連れお寺を尋ねると昨日の話とは打つて變つて『貸すわけには行きません』と和尚さんからの挨拶である、少なくも宗敎家であり私たちの指導者であるべき坊さんのこれが態度でせうか聽けばまだ〳〵收容出來るお寺や邸宅があるさうですが私達のやうに主人も留守で頼る處とて無い者は和尚さんに頼らずして誰を信じどこへ救ひの〃住〃を求めたら良いのでせう、無一文で歸つた私たちにせめてお寺の片偶でも結構ですから開放して下さい

まづ悩みは〃住〃の問題
引揚者聯盟の願ひ

市役所内にある引揚者磐城聯盟相談所談、續々引揚げて來る後から深刻になるのは住宅の問題です、最近は殊にひどく病室にその〃家〃を求めたり、僅か三疊間に三家族が同居する始末です、こんな狀態では夏季を控えて衛生上放任出來ないと思ひます、そんな意味からも少しでも風雨を凌げる部屋があれば可哀想な人達に提供して戴きたいものです、お寺などもその一つで大いに和尚さんの協力をお願ひしたい、中には性源寺のやうに七家族以上も引とつて呉れるお寺もありますがこの外の寺院で若し收容可能なところがあれば切に應援願ひたい

實狀を調査し協力要請せん
平市役所の談

引揚者の住宅問題には心から同情すると共にこの解決策の一助としてお寺の開放運動も考られます、現在市内には昭岸寺（新川町）性源寺（長橋町）九品寺（仲間町）普門寺（北目）安養寺（下平窪）松堂院（古鍛冶）泉藏院（久保町）大寶寺（古鍛冶町）菩提院（古鍛冶町）良善寺（古鍛冶町）常勝院（中平窪）忠敎寺（四波）薗秀寺（中塩）大運寺（大室）淨國寺（上平窪）長源寺（胡麿澤）の寺がありこれが皆困つてゐる人達に提供して一杯だと云ふ譯でもないと思ふし實狀を調査して住職側の協力を得ると共にお寺や大邸宅で澤山收容する余地のある建物には困つてゐる人達へ住宅を開放する運動も市民と共に行ひたいと考てをります

一時預品金融
安價な質流品　湯本ウラ町　青柳

パイプ工場も併合
四倉セメントが

磐城セメント四倉工場では傍系工場たるセニスパイプ四倉工場を去る一日併合、岡田千早工場長から舊パイプ從業員に對し磐城セメント發祥の地たる四倉工場の由來を說明、親工場たる誇りを持つて一層の奮鬪を希望するところあつた、尙全パイプは上下水用として進駐軍方面關係からの發註も多く鐵資材の缺点や又その不足を補ふものとして、その增産は大きな期待をかけられてゐる

後援會から先生方へ
一名百圓の割で四月分とし贈る

平市では遠沼龍輔氏を會長に市內四國民學校兒童保護者を中心に先生方に生活の後援會を結成し會員一人年額二十圓以上の醵出をなすことに決定したがこの結果に基いて四日百二十三名の先生達へ四月分として一名當り百圓宛を贈つた、尙五、六月分は順次入金次第に贈くることゝなつたがこれで先生方も救はれるといふもの

開放
投書を歡迎す　要望批判結構　紙上匿名可

魚配給所に希む

平驛前の青空市場から魚屋さん、野菜屋さん、それにゴム製品の販賣店など姿を消した。驛前の道路が何となくきれいに成つた感じたが、或る一面には淋しくもある。何故に姿を消したかは云ふまでもなく、生活必需物資の統制を紊すものとして、取締りの再強化に因るものであることは論ずるまでもない。

ところが、家庭の臺所を預る主婦に云はせると市場があつた方が便利だといふ。理由は『配給品だけで生活出來るなら問題でないが、配給品はどうしても途切れ勝ちだ、青空市場の闇商品だけで生活出來やう筈はないが、突然の來客の際などまごつかずにすむ、品物も自由勝手に選澤が出來るしそれに値段は高くとも目切れや抱き合せがなく客扱ひが親切だ』―といふのである。

成程最近も配給所の魚屋さんは不親切で、目切れが多くて、抱き合せを時々やる生活必需物資の統制を紊す点で青空市場の取締り強化も首肯出來る。これは止むを得ないとして今度希望することは、魚配給所がもう少し親切に目切れなどにも注意を拂ふこと、戰時中非難の的だつた『魚に昆布』といふやうな抱合せ販賣など遠慮して貰ふことである　（武藏山人）

生活と文化　武藏野の美
千輝克己

武藏野の自然を描いた近代文學には佳いものが澤山あるだらうが、私が青年時代に愛讀して今尙記憶に殘つてゐるのは德富蘆花、國木田獨歩、田山花袋のもの、最近讀んだものでは吉田絃二郎の小品文である。ところが斯ういふ人達の武藏野の自然に寄せた感懷の多くは一種の哀調を帶びてゐる。現實よりは詠嘆に、實感よりも懷古に傾いてゐる。ひとり花袋のものは華かであり、肉感的でさへあるが、概括して云へば哀調を帶びた、寂しく沈んだものがその基調となつてゐる。何故だらうか。達觀すれば人生は寂しいものに決つてゐる。我國でも外國でも名高い文學作品にして其の基調に苦惱哀感を潛めてゐないものゝないほどだ。だからかういふ見地からわが國の武藏野文學を評すれば非常に高く價値づけて好いだらう。

然し私のみるところでは他にもつと直接的な動因があるやうに思はれる。それは國民一般に從來歷史や文學史上で、武藏野を月の入るべき山もなき廣々とした野原である、そこには露を帶びた萩、女郎花、唧々として鳴く虫の聲があるばかりだとする古い傳統的美感を強く注入されてゐるが、この傳統が多かれ少かれ我國の明治大正の文人を支配してゐないはずがない。武藏名所記、東海道名所記、更科日記、武藏野紀行などを繙けば

武藏野の草にかり寢の秋の夜は結ぶ夢ぢもはてやなからむ

草の原分けもつくさぬむさしのゝけふの限はゆうべなりけり

の歌などにあるやうな幽韻襞なくして響き渡る寂しみを帶びたものとして武藏野を形容したものが多い。さうして不思儀にも季節からいつて盛夏から晩秋へかけての武藏野を語つてゐるものが、その八、九割を占めてゐるのである。これは偶然か必然かはつきり分らぬけれども、恐らく莽草茫々たりし昔の武藏野の表現として月か草露か、虫聲かに托するのが技巧的に最も多くの效果をあげ易かつたからではなからうか。

確か獨歩であつたと思ふが、武藏野の自然美の極致は連立するくぬぎ林にあるといつてゐたを覺えてゐる。秋から冬へかけて空になつたくぬぎ林には憐かに寂しみがある。況して落葉をカラ〳〵吹き散らす風聲には何ともいへぬ哀調が漂ふてゐる。そこを痛感した獨歩がそこに自然美の極致を認めたのは無理のない行き方であらう。

私もくぬぎ林が武藏野を美化する大きい構成要素であると信じてゐるが、それに對して獨歩程の重点を置く氣持になれないし又秋のくぬぎ林よりも春から夏にかけて柔い新芽を吹いたくぬぎ林に潑剌とした春のけはひを感じる一人である。

短歌
春の山ゆく　永井浩三郎

年々に木々の梢の萠えそむるころほし米鳴く小鳥かなしも

懷しきおもひにしばし百合の芽をいとほしみつゝ春の山ゆく

生活抄
與平

雨上がりの山にじくれば木々の芽の驚くばかりさ青くなりぬ

木々の芽の青む梢のゆるゝとき山は靜かに風立ちにけり

久々に活けし生花のうれしくてりんどう入れり胸のそよめき

今日よりは君が仰せし言の葉を秘めてぞゆかんたゞひとすじに

なにげなくとりいだしたるアルバムに亡き師のあるを悲しくぞ思ふ

一つ食ひ二つ食ひしてなをはめばいとしき君の香をぞしぬばゆ

いまめかし心もとなき吾が身をば安見児といゝし人ぞ悲しき

いわき俳壇
ほとゝぎす　片寄祇喜

中天に轉り叫ぶほとゝぎす

夕空や臙紅のほとゝぎす

子よ泣くな今に血を吐く不如歸

時鳥にやつれ見上げし已が顔

春の宵ひそかに腰のあたりから

春の宵小聯にさやぐ家を出る

春の宵宿替へしたる背のあたり

初夏　永井安藏

花相や今朝發つ驛に眼にしるく

トンネルをいづればさやし緑若葉

川石の飛沫に藤の花たれて

柵の藤軒に美しき人縫いぬ

若葉風朝の水田にそよぎけり

木蓮の花にたわみてとり啼けり

朽ちかけて谿のつり橋濃山吹

葉櫻のかげ濃く白き蝶舞いぬ

長旅のつかれを降りぬ燃えつゝじ

植田町でも舞踊と音樂會

海外引揚者磐城聯盟が

海外引揚同胞磐城聯盟では援護基金造成のため、來る十六日植田町と植田署後援の下に、全町國民學校講堂で〃舞踊と輕音樂の會〃を晝夜二回催すことに決定した、出演は花柳登代藏氏の率ゆる花柳舞踊團及びヒバリ樂團等々とある。尙全聯盟では本月もこれで田植えの農繁期に入るので一先づ中止、來月は小名濱、江名、湯本、四倉の各町で全樣の會を催し基金を獲得すると共に一層活潑な活動を開始することになつた

佐藤幸太郎商店
平硝子製作所
平窯業株式會社
平木工株式會社
佐藤幸太郎
本社　平市田町電四五五
東京事務所　東京都芝區新橋二ノ三八（烏丸ビル）
小名濱出張所　小名濱町定西

開業御挨拶
前略　私儀今般復員後歸鄕左記に於て診療に從事致可候に付き倍舊の御支援賜り度願上候、不取敢以紙上御挨拶迄如斯候　匆々
昭和二十一年六月
平市鎌田町
金成醫院
外科專門
諸橋鐵彌